

2021年7月25日(日) メッセージアウトライン 「遣わされることがなければ・・・」

聖書箇所：ローマ人への手紙10：9～17

タイトル：「遣わされることがなければ・・・」

テーマ：ローマ人への手紙10章には、パウロの同胞ユダヤ人に対する愛があふれている。

パウロは異邦人に福音を伝えるために神に召された使徒である。彼は全ての国の人々がイエス・キリストを信じて救われることを願って、キリストの福音を伝えるために命を捧げた。

異邦人は救われていくのに、肝心のユダヤ人はキリストの福音を宣べ伝える者を迫害し、時には殺してしまうという現実パウロは心を痛めていた。

ユダヤ人は自分たちは神に選ばれた民、律法を与えられている民、自分たちは救われていると勘違いし、異邦人は神からほど遠い民、神の救いからもれた人々というわけで、神のことばを異邦人に伝えるなど考えも及ばなかった。彼らが神のことばを伝えない理由は、この勘違いに起因していた。

一方、パウロにとっては、このいのちの福音を全世界の人々に知らせて、すべての人々がイエス・キリストを信じて救われること、これが神の願いであり、これを伝えることこそ、自分の使命だという深い自覚があったのだ。

しかし、福音を伝える者がいなければ、神が御子イエス様の命を犠牲にしてまでも愛しておられるユダヤ人も異邦人も永遠に滅んでしまうのだ。

パウロは人々が救いに導かれる方法と順序を語りつつ、この福音を聞かなければ、伝えなければ人々は滅んでしまうのだ！と悲痛な叫びをあげている、その声を受けとめよう。

1. ユダヤ人の勘違い（ローマ10：1～7）

①神の義を正しく理解していなかった

*律法による義を追い求めたユダヤ人

*神の義とは「信仰による義」

神の側がすでに用意してくださった律法の成就者であるイエス様を信じること、これに人間の側が付け加えることは何も無い。

②救いの方法についての誤解

*ユダヤ人——律法を守ること

*パウロが宣べ伝えている方法（10：8～10）信仰のことば（福音）

③救いを受けるのはユダヤ人だけという誤解（10：11～13）

*13節「主の御名を呼び求める者はみな救われるのです。」

④宣教についての誤解

*ユダヤ人が救われるのは当然だが、異邦人は救われないという思い込み。

2. 宣べ伝えることの大切さ（14～17節）

宣教の必要性を感じていない人々に、パウロは宣教の大切さを訴えている

① 14節、15節 a

*信じたことのない方を呼び求めることはできない。

*聞いたことのない方を信じることはできない。

*宣べ伝える人がいなくては聞くことはできない。

*遣わされなくては宣べ伝えることができない。

② 15節 b 「何と美しいことか、良い知らせを告げる人たちの足は」（イザヤ52：7からの引用

*イザヤは何を伝えようとしたのか

③ 遣わされる者とは誰ですか

*イエス様ご自身が、父なる神の許からこの地上に人として遣わされたお方であり
「このわたしを信ぜよ」と告げられたお方ではありませんか。

*マタイ28：18～20、使徒の働き1：8

弟子たちに、さらにイエス様を信じるすべての人に

3. 結論

①福音を宣べ伝える者がいなければ人は救われない

②福音を宣べ伝えるのはあなたです

③「初めてのおつかい」というテレビ番組をご存知ですか